

金沢医科大学・医学部-前期

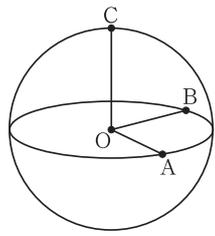
試験日 2023年1月30日 1~4 31日 5~8 時間60分 数学I 数学II 数学III 数学A 数学B (数列, ベクトル)

1 3個のさいころ A, B, C と1枚の硬貨を同時に投げるとき, さいころの出る目をそれぞれ a, b, c とする. また, 硬貨の表が出たとき, $k=1$ とし, 硬貨の裏が出たとき, $k=2$ とする. これらの値に対して, 式 $L = \log_{a+k} bc$ を考える.

- (1) L の値が最大になるとき, L を超えない最大の整数は \square である.
- (2) L の値が最小になるとき, $L = \square$ であり, このときの確率は $\frac{\square}{\square}$ である.
- (3) L の値が自然数になる確率は $\frac{\square}{\square}$ である.
- (4) L の値が3以上4以下になる確率は $\frac{\square}{\square}$ である.
- (5) L の値が0.5を超える確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

2 a を定数とする. 直線 $y = x + a \dots \textcircled{1}$ と円 $x^2 + y^2 = 4 \dots \textcircled{2}$ が異なる2点で交わり, この2点と原点 O を頂点とする三角形が正三角形であるとき, a の値は $\pm \sqrt{\text{ア}}$ である. $\textcircled{2}$ と直線 $y = x + \sqrt{\text{ア}}$ の交点を A, B, $\textcircled{2}$ と直線 $y = x - \sqrt{\text{ア}}$ の交点を C, D とする. ただし, A の x 座標は B の x 座標より大きく, D の x 座標は C の x 座標より大きいとする. このとき, A の座標は $\left(\frac{\sqrt{\square} - \sqrt{\square}}{\square}, \frac{\sqrt{\text{イ}} + \sqrt{\text{ウ}}}{\square} \right)$, AD の長さは $\square \sqrt{\square}$, 四角形 ABCD の面積は $\square \sqrt{\square}$ である. ただし, $\text{イ} < \text{ウ}$ とする. 次に, $\textcircled{1}$ と平行で y 切片が正である直線が $\textcircled{2}$ と接するとき, この直線の方程式は $y = x + \square \sqrt{\square} \dots \textcircled{3}$ である. さらに, $\textcircled{3}$ と直線 OA, OB の交点をそれぞれ A', B' とするとき, $\triangle OA'B'$ の面積は $\frac{\square \sqrt{\square}}{\square}$ である.

3 図のように, 点 O を中心とする半径1の球面上に異なる3点 A, B, C があり, $\vec{OA}, \vec{OB}, \vec{OC}$ はどの2つも互いに垂直であるとする. s, t を正の定数とし, 球面上の点 P, Q が $\vec{OP} = \frac{1}{2}\vec{OA} + s\vec{OC}, \vec{OQ} = \frac{1}{3}\vec{OB} + t\vec{OC}$ をみたすとき, $s = \frac{\sqrt{\square}}{\square}, t = \frac{\square \sqrt{\square}}{\square}$ であり, $\cos \angle POQ$ の値は $\frac{\sqrt{\square}}{\square}$ である. また, 点 C から平面 OPQ に垂線 CH を下ろすとき, $\vec{CH} = \frac{\sqrt{\square}\vec{OA} + \square \sqrt{\square}\vec{OB} - \vec{OC}}{\square}$ であり, 四面体 OCPQ の体積は $\frac{\square}{\square}$ である.



4 関数 $f(x) = \frac{x}{\sqrt{x^4+1}}$ ($x \geq 0$) は $x = \square$ のとき、極大値 $\frac{\sqrt{\square}}{\square}$ をとる。また、曲線 $y = f(x)$ 上の $x = \square\sqrt{\square}$ における点の変曲点である。ここで、この変曲点における接線が x 軸および y 軸と交わる点をそれぞれ A, B とする。原点を O とするとき、 $\triangle OAB$ の面積は $\frac{\square\sqrt{\square}}{\square}$ である。次に、 a を正の定数とする。方程式 $\sqrt{x^4+1} = ax$ は $a > \sqrt{\square}$ のとき、異なる \square 個の実数解をもつ。

5 1 から 6 までの数字がそれぞれ 1 面ずつに書かれたさいころがある。このさいころを 1 回投げるときに、出た面をその数字に 1 を加えた数字に書きかえるものとする。例えば、6 が出たときはその面を 7 に書きかえる。このさいころを 3 回続けて投げたとき、以下の問いに答えよ。

(1) 書かれている数字が 6 種類である確率は $\frac{\square}{\square}$ である。

(2) 同じ数字が 3 か所に書かれている確率は $\frac{\square}{\square}$ である。

(3) 書かれている数字が 3 種類である確率は $\frac{\square}{\square}$ である。

(4) 2 が少なくとも 1 か所に書かれている確率は $\frac{\square}{\square}$ である。

6 2 つの直線 $y = \frac{2}{3}x \dots \textcircled{1}$, $y = -\frac{4}{3}x \dots \textcircled{2}$ に接し、点 $K(0, 1)$ を通る放物線の方程式は

$y = \frac{\square}{\square}x^2 - \frac{\square}{\square}x + \square \dots \textcircled{3}$ である。①と③の接点を A, ②と③の接点を B とするとき、

$A\left(\square, \frac{\square}{\square}\right), B\left(-\square, \frac{\square}{\square}\right)$ である。また、K における③の接線の方程式は $y = -\frac{\square}{\square}x + 1 \dots \textcircled{4}$

であり、原点を O, ④と①の交点を A', ④と②の交点を B' とするとき、 $\triangle OA'B'$ の面積は \square である。

7 自然数 1, 2, 3, ... を図のように配置する。

(1) 1 行目に現れる数列 1, 3, 4, 10, 11, ... を順に $a_1, a_2, a_3, a_4, a_5, \dots$ とするとき、 $a_{15} = \square, a_{16} = \square$ である。

(2) 200 は \square 行目の \square 列目にある。

次に、 n 行目の n 列目にある数を b_n とする。すなわち、 $b_1 = 1, b_2 = 5, b_3 = 13, \dots$ とする。

(3) $b_n = \square n^2 - \square n + \square$ と表される。

(4) 1000 を超えない b_n の最大値は \mathcal{A} であり、 $b_n = \mathcal{A}$ を満たす n の値は \square である。

	1列	2列	3列	4列	5列	6列	...
1行	1	3	4	10	11	...	
2行	2	5	9	12	...		
3行	6	8	13	...			
4行	7	14	...				
5行	15	...					
6行	16						
...							

8 楕円 $\frac{x^2}{3} + \frac{y^2}{9} = 1$ ($x \geq 0$) $\dots \textcircled{1}$ 上の点 P における①の接線の傾きが -1 であるとき、P の座標は

$\left(\frac{\sqrt{\square}}{\square}, \frac{\square\sqrt{\square}}{\square} \right)$ である。次に、 a, b を定数とする。放物線 $x + ay^2 + b = 0 \dots \textcircled{2}$ が P を通り、 P において $\textcircled{1}$ と共通の接線をもつとき、 $a = \frac{\sqrt{\square}}{\square}, b = -\frac{\square\sqrt{\square}}{\square}$ である。このとき、 $\textcircled{1}$ と $\textcircled{2}$ で囲まれる部分の面積は $\frac{\square}{\square} - \sqrt{\square}\pi$ である。

1 **【数学Ⅱ】【対数の計算】【標準】**

▶解答◀ (1) $k = 1, 2, 1 \leq a \leq 6, 1 \leq b \leq 6, 1 \leq c \leq 6$ であるから、 $2 \leq a+k \leq 8, 1 \leq bc \leq 36$ である。

$L = \frac{\log_{10} bc}{\log_{10}(a+k)}$ が最大になるのは、 $a+k$ が最小で、 bc が最大になるときで、 $a+k=2, bc=36$ のときである。このとき $L = \log_2 36$ で

$$2^5 < 36 < 2^6 \quad \therefore 5 < L < 6$$

ガウス記号(小数部分の切り捨て)を用いて、 $[L] = 5$ となる。

(2) $L \geq 0$ であり、 L の最小値は 0 である。そのとき $bc=1$ であり、 $(b, c) = (1, 1)$ であるから、求める確率は $\left(\frac{1}{6}\right)^2 = \frac{1}{36}$ である。

(3) $a+k$ の取り得る値、 bc の取り得る値は次のようになる。

表1

$a \setminus k$	1	2
1	2	3
2	3	4
3	4	5
4	5	6
5	6	7
6	7	8

表2

$b \setminus c$	1	2	3	4	5	6
1	1	2	3	4	5	6
2	2	4	6	8	10	12
3	3	6	9	12	15	18
4	4	8	12	16	20	24
5	5	10	15	20	25	30
6	6	12	18	24	30	36

$a+k=2$ (確率 $\frac{1}{12}$) のとき、 L が整数となるのは、 $bc=2, 4, 8, 16$ のときで、このときの (b, c) は 8 通りあるから、確率は $\frac{8}{36}$ である。

$a+k=3$ (確率 $\frac{2}{12}$) のとき、 L が整数となるのは、 $bc=3, 9$ のときで、このときの (b, c) は 3 通りあるから、確率は $\frac{3}{36}$ である。

$a+k=4$ (確率 $\frac{2}{12}$) のとき、 L が整数となるのは、 $bc=4, 16$ のときで、このときの (b, c) は 4 通りあるから、確率は $\frac{4}{36}$ である。

$a+k=5$ (確率 $\frac{2}{12}$) のとき、 L が整数となるのは、 $bc=5, 25$ のときで、このときの (b, c) は 3 通りあるから、確率は $\frac{3}{36}$ である。

$a+k=6$ (確率 $\frac{2}{12}$) のとき、 L が整数となるのは、 $bc=6, 36$ のときで、このときの (b, c) は 5 通りあるから、確率は $\frac{5}{36}$ である。

$a+k=7$ (確率 $\frac{2}{12}$) のとき、 L が整数となる bc は存在しない。

$a+k=8$ (確率 $\frac{1}{12}$) のとき、 L が整数となるのは、 $bc=8$ のときで、このときの (b, c) は 2 通りあるから、確率は $\frac{2}{36}$ である。

求める確率は

$$\frac{1}{12} \left(\frac{8}{36} + \frac{2}{36} \right) + \frac{2}{12} \left(\frac{3}{36} + \frac{4}{36} + \frac{3}{36} + \frac{5}{36} \right) = \frac{10+30}{12 \cdot 36} = \frac{5}{54}$$

(4) $3 \leq L \leq 4$ のとき

$$(a+k)^3 \leq bc \leq (a+k)^4 \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

$a+k \geq 4$ のとき、 $(a+k)^3 \geq 64$ であるから、 $1 \leq bc \leq 36$ に適さない。

$a+k=2$ のとき、 $\textcircled{1}$ より $8 \leq bc \leq 16$ であるから、 $bc=8, 9, 10, 12, 15, 16$ で、このときの (b, c) は 12 通りあるから、確率は $\frac{12}{36}$ である。

$a+k=3$ のとき、 $\textcircled{1}$ より $27 \leq bc \leq 81$ であるから、 $bc=30, 36$ で、このときの (b, c) は 3 通りあるから、確率は $\frac{3}{36}$ である。

求める確率は

$$\frac{1}{12} \cdot \frac{12}{36} + \frac{2}{12} \cdot \frac{3}{36} = \frac{18}{12 \cdot 36} = \frac{1}{24}$$

(5) 余事象を考える。 $L \leq 0.5$ のとき

$$bc \leq \sqrt{a+k}$$

$\sqrt{a+k} \leq \sqrt{8} = 2.82\dots$ であるから、 $bc=1, 2$ である。

$bc=1$ (確率 $\frac{1}{36}$) のとき、 $\sqrt{a+k} \geq 1$ より $a+k \geq 1$ であるから、常に成り立つ。

$bc=2$ (確率 $\frac{2}{36}$) のとき、 $\sqrt{a+k} \geq 2$ より $a+k \geq 4$ であるから、 $a+k=4, 5, 6, 7, 8$ で、確率は $\frac{9}{12}$ である。

求める確率は

$$1 - \left(\frac{1}{36} + \frac{2}{36} \cdot \frac{9}{12} \right) = 1 - \frac{30}{36 \cdot 12} = \frac{67}{72}$$

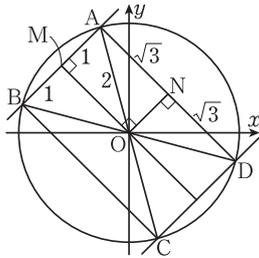
4 金沢医科大学・医学部-前期

2 **数学Ⅱ**【円と直線】**標準**

▶解答◀ ①, ②が異なる2点で交わり, これらとOで正三角形を作るとき, Oと①の距離は $\sqrt{3}$ であるから

$$\frac{|a|}{\sqrt{1^2+(-1)^2}} = \sqrt{3} \quad \therefore a = \pm\sqrt{6}$$

ABの中点をM, ADの中点をNとする.



$y = x + \sqrt{6}$ と②を連立して

$$\begin{aligned} x^2 + (x + \sqrt{6})^2 &= 4 \\ x^2 + \sqrt{6}x + 1 &= 0 \\ x &= \frac{-\sqrt{6} \pm \sqrt{2}}{2} \end{aligned}$$

$\alpha = \frac{\sqrt{2} - \sqrt{6}}{2}$ とおく. Aの座標は $(\alpha, \alpha + \sqrt{6})$ である

から $(\frac{\sqrt{2} - \sqrt{6}}{2}, \frac{\sqrt{2} + \sqrt{6}}{2})$ である.

$\triangle OAB$ と $\triangle OCD$ はOについて対称であるから, BDは②の直径で, 四角形ABCDは長方形である.

$$AB = OA = 2$$

であるから

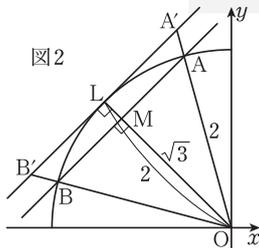
$$AD = 2\sqrt{3}$$

四角形ABCDの面積は $2 \cdot 2\sqrt{3} = 4\sqrt{3}$ である.

直線 $y = x + b$ が②と接するとき

$$\frac{|b|}{\sqrt{1^2+(-1)^2}} = 2$$

で, $b > 0$ より③は $y = x + 2\sqrt{2}$ である.



$A'B'$ の中点をLとする. $OL = 2$ である.

$$\begin{aligned} \triangle OA'B' &= \triangle OAB \left(\frac{OL}{OM}\right)^2 \\ &= \frac{\sqrt{3}}{4} \cdot 2^2 \cdot \left(\frac{2}{\sqrt{3}}\right)^2 = \frac{4\sqrt{3}}{3} \end{aligned}$$

3 **数学B**【ベクトルと図形(空間)]**標準**

▶解答◀ $|\vec{OP}|^2 = 1$ より

$$\begin{aligned} \left|\frac{1}{2}\vec{OA} + s\vec{OC}\right|^2 &= 1 \\ \frac{1}{4}|\vec{OA}|^2 + s\vec{OA} \cdot \vec{OC} + s^2|\vec{OC}|^2 &= 1 \\ |\vec{OA}| = |\vec{OC}| = 1, \vec{OA} \cdot \vec{OC} = 0 &\text{であるから} \\ s^2 + \frac{1}{4} &= 1 \end{aligned}$$

$s > 0$ より $s = \frac{\sqrt{3}}{2}$ である.

$|\vec{OQ}|^2 = 1$ より

$$\begin{aligned} \left|\frac{1}{3}\vec{OB} + t\vec{OC}\right|^2 &= 1 \\ \frac{1}{9}|\vec{OB}|^2 + \frac{2t}{3}\vec{OB} \cdot \vec{OC} + t^2|\vec{OC}|^2 &= 1 \\ |\vec{OB}| = |\vec{OC}| = 1, \vec{OB} \cdot \vec{OC} = 0 &\text{であるから} \\ t^2 + \frac{1}{9} &= 1 \end{aligned}$$

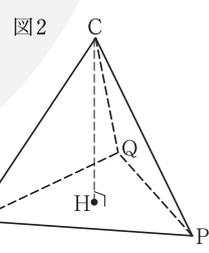
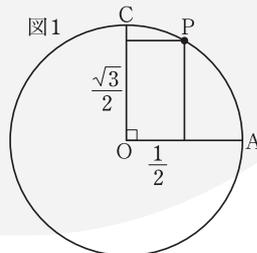
$t > 0$ より $t = \frac{2\sqrt{2}}{3}$ である.

$$\vec{OA} \cdot \vec{OB} = \vec{OB} \cdot \vec{OC} = \vec{OC} \cdot \vec{OA} = 0 \text{より}$$

$$\begin{aligned} \vec{OP} \cdot \vec{OQ} &= \left(\frac{1}{2}\vec{OA} + \frac{\sqrt{3}}{2}\vec{OC}\right) \cdot \left(\frac{1}{3}\vec{OB} + \frac{2\sqrt{2}}{3}\vec{OC}\right) \\ &= \frac{\sqrt{6}}{3}|\vec{OC}|^2 = \frac{\sqrt{6}}{3} \dots\dots\dots \text{①} \end{aligned}$$

であるから

$$\cos \angle POQ = \frac{\vec{OP} \cdot \vec{OQ}}{|\vec{OP}| |\vec{OQ}|} = \frac{\sqrt{6}}{3}$$



Hは平面OPQ上の点であるから, $\vec{OH} = p\vec{OP} + q\vec{OQ}$ とおく. このとき

$$\vec{CH} = \vec{OH} - \vec{OC} = p\vec{OP} + q\vec{OQ} - \vec{OC}$$

である. ここで

$$\vec{OP} \cdot \vec{OC} = \left(\frac{1}{2}\vec{OA} + \frac{\sqrt{3}}{2}\vec{OC}\right) \cdot \vec{OC}$$

$$= \frac{\sqrt{3}}{2}|\vec{OC}|^2 = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\vec{OQ} \cdot \vec{OC} = \left(\frac{1}{3}\vec{OB} + \frac{2\sqrt{2}}{3}\vec{OC}\right) \cdot \vec{OC}$$

$$= \frac{2\sqrt{2}}{3} |\vec{OC}|^2 = \frac{2\sqrt{2}}{3}$$

である。CH ⊥ OP より、①を用いて

$$\begin{aligned} \vec{CH} \cdot \vec{OP} &= (p\vec{OP} + q\vec{OQ} - \vec{OC}) \cdot \vec{OP} \\ &= p|\vec{OP}|^2 + q\vec{OQ} \cdot \vec{OP} - \vec{OC} \cdot \vec{OP} \\ &= p + \frac{\sqrt{6}}{3}q - \frac{\sqrt{3}}{2} = 0 \dots\dots\dots ② \end{aligned}$$

CH ⊥ OQ より、①を用いて

$$\begin{aligned} \vec{CH} \cdot \vec{OQ} &= (p\vec{OP} + q\vec{OQ} - \vec{OC}) \cdot \vec{OQ} \\ &= p\vec{OP} \cdot \vec{OQ} + q|\vec{OQ}|^2 - \vec{OC} \cdot \vec{OQ} \\ &= \frac{\sqrt{6}}{3}p + q - \frac{2\sqrt{2}}{3} = 0 \dots\dots\dots ③ \end{aligned}$$

②より $p = \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{\sqrt{6}}{3}q$ となり、③に代入して

$$\begin{aligned} \frac{\sqrt{6}}{3} \left(\frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{\sqrt{6}}{3}q \right) + q - \frac{2\sqrt{2}}{3} &= 0 \\ \frac{1}{3}q - \frac{\sqrt{2}}{6} &= 0 \quad \therefore q = \frac{\sqrt{2}}{2} \end{aligned}$$

したがって、 $p = \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{\sqrt{6}}{3} \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} = \frac{\sqrt{3}}{6}$ であるから

$$\begin{aligned} \vec{CH} &= \frac{\sqrt{3}}{6}\vec{OP} + \frac{\sqrt{2}}{2}\vec{OQ} - \vec{OC} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{6} \left(\frac{1}{2}\vec{OA} + \frac{\sqrt{3}}{2}\vec{OC} \right) \\ &\quad + \frac{\sqrt{2}}{2} \left(\frac{1}{3}\vec{OB} + \frac{2\sqrt{2}}{3}\vec{OC} \right) - \vec{OC} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{12}\vec{OA} + \frac{\sqrt{2}}{6}\vec{OB} - \frac{1}{12}\vec{OC} \\ &= \frac{\sqrt{3}\vec{OA} + 2\sqrt{2}\vec{OB} - \vec{OC}}{12} \end{aligned}$$

となり

$$\begin{aligned} |\vec{CH}|^2 &= \frac{1}{144} |\sqrt{3}\vec{OA} + 2\sqrt{2}\vec{OB} - \vec{OC}|^2 \\ &= \frac{1}{144} (3|\vec{OA}|^2 + 8|\vec{OB}|^2 + |\vec{OC}|^2) \\ &= \frac{3+8+1}{144} = \frac{1}{12} \end{aligned}$$

$|\vec{CH}| = \sqrt{\frac{1}{12}} = \frac{1}{2\sqrt{3}}$ である。①より

$$\begin{aligned} \triangle OPQ &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{OP}|^2 |\vec{OQ}|^2 - (\vec{OP} \cdot \vec{OQ})^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{1 \cdot 1 - \left(\frac{\sqrt{6}}{3} \right)^2} = \frac{1}{2\sqrt{3}} \end{aligned}$$

したがって、四面体 OCPQ の体積は

$$\frac{1}{3} \cdot \triangle OPQ \cdot CH = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2\sqrt{3}} \cdot \frac{1}{2\sqrt{3}} = \frac{1}{36}$$

4 **数学Ⅲ**【微分と方程式】**標準**
▶解答▶ $f(x) = \frac{x}{\sqrt{x^4+1}}$

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{\sqrt{x^4+1} - x \cdot \frac{4x^3}{2\sqrt{x^4+1}}}{x^4+1} \\ &= \frac{1-x^4}{(x^4+1)^{\frac{3}{2}}} = \frac{(1+x)(1-x)(1+x^2)}{(x^4+1)^{\frac{3}{2}}} \\ f''(x) &= \left\{ \frac{1-x^4}{(x^4+1)^{\frac{3}{2}}} \right\}' \\ &= \frac{1}{(x^4+1)^3} \left\{ -4x^3(x^4+1)^{\frac{3}{2}} \right. \\ &\quad \left. - (1-x^4) \cdot \frac{3}{2}(x^4+1)^{\frac{1}{2}} \cdot 4x^3 \right\} \\ &= \frac{-2x^3\{2(x^4+1) + 3(1-x^4)\}}{(x^4+1)^{\frac{5}{2}}} \\ &= \frac{2x^3(x^4-5)}{(x^4+1)^{\frac{5}{2}}} \end{aligned}$$

$x \geq 0$ で増減表は次のようになる。

x	0	...	1	...	$\sqrt[4]{5}$...
$f'(x)$		+	0	-	-	-
$f''(x)$		-	-	-	0	+
$f(x)$		↗		↘		↘

$$\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{1}{\sqrt{x^2 + \frac{1}{x^2}}} = 0, \quad f(0) = 0$$

である。 $x = 1$ のとき、極大値 $f(1) = \frac{\sqrt{2}}{2}$ をとる。変曲点の x 座標は $x = \sqrt[4]{5}$ である。 $\alpha = \sqrt[4]{5}$ とおく。

$$\begin{aligned} f(\alpha) &= \frac{\alpha}{\sqrt{5+1}} = \frac{\alpha}{\sqrt{6}} \\ f'(\alpha) &= \frac{1-5}{(5+1)^{\frac{3}{2}}} = -\frac{4}{6\sqrt{6}} = -\frac{2}{3\sqrt{6}} \end{aligned}$$

より、変曲点における接線は

$$\begin{aligned} y &= -\frac{2}{3\sqrt{6}}(x-\alpha) + \frac{\alpha}{\sqrt{6}} \\ y &= -\frac{2}{3\sqrt{6}}x + \frac{5\alpha}{3\sqrt{6}} \end{aligned}$$

$y = 0$ のとき $x = \frac{5\alpha}{2}$ より、A の座標は $\left(\frac{5\sqrt[4]{5}}{2}, 0 \right)$,

$x = 0$ のとき $y = \frac{5\alpha}{3\sqrt{6}}$ より B の座標は $\left(0, \frac{5\sqrt[4]{5}}{3\sqrt{6}} \right)$ である。

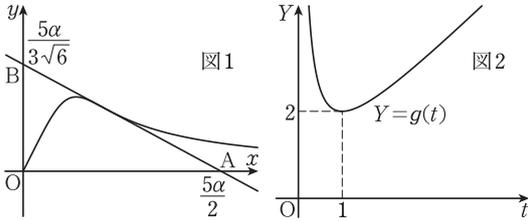
$$\triangle OAB = \frac{1}{2} \cdot \frac{5\sqrt[4]{5}}{2} \cdot \frac{5\sqrt[4]{5}}{3\sqrt{6}} = \frac{25\sqrt{5}}{12\sqrt{6}} = \frac{25\sqrt{30}}{72}$$

また、 $\sqrt{x^4+1} = ax$ のとき、 $x = 0$ では成立しないから $x > 0$ であり、

$$\sqrt{x^2 + \frac{1}{x^2}} = a$$

6 金沢医科大学・医学部-前期

$g(t) = t + \frac{1}{t}, t = x^2 > 0$ とおくと,
 $g'(t) = 1 - \frac{1}{t^2} = \frac{t^2 - 1}{t^2}$ で, $g(t)$ は $t = 1$ で最小値 2 をとる. $\lim_{t \rightarrow +0} g(t) = \infty, \lim_{t \rightarrow \infty} g(t) = \infty$ より, $\sqrt{g(t)} = a$ は $a > \sqrt{2}$ のとき, 異なる 2 個の実数解をもつ.



5 **数学A** 【確率の雑題】 **標準**

▶解答◀ 途中で目の数を変えると, 記述がややこしくなる. たとえば最初に 4 の目が出れば, その面の数は 5 になるが, 5 の面が 2 つになったからといって, 「最初 4 だった面」が次に出る確率は $\frac{1}{6}$ のままで, 変わらない. それなら, 目の数を増やすのはサイコロを 3 回振り終えた後にまとめてやることにして, 途中では目を書き変えないことにする.

これは, 階段 (9 段は必要だ) があり, 1 段目から 6 段目まで, 各段に 1 人ずつ, A, B, C, D, E, F さんが立っていて, 各面に A, B, C, D, E, F と書いたサイコロを振り, 毎回 1 人を 1 段上にあげるといってもよい. 階段は横幅が広く, 1 段に 6 人が並ぶこともできるとする. (1) は 3 回振って 6 人がバラバラに, 異なる段に立っている確率を求めることになる.

(1) 題意に合う場合, 1, 2, 3 は出てはいけない. 毎回 4 か 5 か 6 が出る 3^3 通りのケースのすべてが適するわけではなく, このうちの次の場合が適する.

4 が 3 回出るとき (4 が最終的に 7 になる) か, 5 が 3 回出るときか, 6 が 3 回出るときか, 4 と 5 と 6 が 1 回ずつ出る ($3!$ 通り) とときか, 4 が 2 回出てかつ 6 が 1 回出る (3 通り) か, 5 が 2 回出てかつ 4 が 1 回出る (3 通り) か, 6 が 2 回出てかつ 5 が 1 回出る (3 通り) とときである. 求める確率は $\frac{3 + 3! + 3 \cdot 3}{6^3} = \frac{1}{12}$ である.

(2) 階段で説明すれば, 1 つの段に 3 人が並ぶという話である. そのためには, 最初, その段以下に 3 人以上いないといけない. 題意に合うのは次の場合である.

3 段目に 3 人が並ぶのは 1 が 2 回出てかつ 2 が 1 回出る (3 通り) ととき, 4 段目に 3 人が並ぶのは 2 が 2 回出てかつ 3 が 1 回出るとき, 5 段目, 6 段目についても同様で, 求める確率は $\frac{3 \cdot 4}{6^3} = \frac{1}{18}$ である.

(3) 2 段目, 4 段目, 6 段目に 2 人ずつ並ぶときしかな

い, 1, 3, 5 が 1 回ずつ出る $3!$ 通りである. 求める確率は $\frac{3!}{6^3} = \frac{1}{36}$ である.

(4) 2 が 1 回も出ない (5^3 通り) ととき, 2 が 1 回, 1 が 1 回, 3~6 のどれか (4 通り) が 1 回出る ($4 \cdot 3!$ 通り) ととき, 2 が 2 回, 1 が 1 回出る (3 通り) とときがある. 求める確率は $\frac{125 + 24 + 3}{6^3} = \frac{152}{216} = \frac{19}{27}$ である.

6 **数学II** 【接線】 **標準**

▶解答◀ 放物線を $y = ax^2 + bx + 1$ とおき, A, B の x 座標をそれぞれ α, β とする.
 $y = ax^2 + bx + 1$ のとき, $y' = 2ax + b$ であるから, $x = t$ における接線は

$$y = (2at + b)(x - t) + at^2 + bt + 1$$

$$y = (2at + b)x - at^2 + 1 \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

$t = \alpha, \beta$ を代入すると ①, ② に一致するから

$$2a\alpha + b = \frac{2}{3} \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

$$-a\alpha^2 + 1 = 0 \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

$$2a\beta + b = -\frac{4}{3} \dots\dots\dots \textcircled{4}$$

$$-a\beta^2 + 1 = 0 \dots\dots\dots \textcircled{5}$$

⑦, ⑨ より

$$a\alpha^2 = a\beta^2$$

$a \neq 0, \alpha \neq \beta$ より $\beta = -\alpha$ で, ⑧ に代入して

$$-2a\alpha + b = -\frac{4}{3}$$

⑥ と連立して

$$2b = -\frac{2}{3} \quad \therefore b = -\frac{1}{3}$$

⑥ に代入して

$$2a\alpha = 1 \quad \therefore a\alpha = \frac{1}{2}$$

⑦ に代入して

$$-\frac{\alpha}{2} + 1 = 0 \quad \therefore \alpha = 2$$

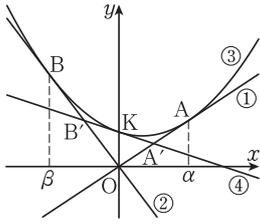
したがって $\beta = -\alpha = -2$ で, $a = \frac{1}{4}$ であるから, ③

は $y = \frac{1}{4}x^2 - \frac{1}{3}x + 1$ であり, ①, ② より, A の座標は $(2, \frac{4}{3})$, B の座標は $(-2, \frac{8}{3})$ となる.

⑤ の $t = 0, a = \frac{1}{4}, b = -\frac{1}{3}$ を代入して, K における ③ の接線は $y = -\frac{1}{3}x + 1$ となる.

①, ④ より $x = 1, y = \frac{2}{3}$ であるから, A' の座標は $(1, \frac{2}{3})$ である. ②, ④ より $x = -1, y = \frac{4}{3}$ であるから, B' の座標は $(-1, \frac{4}{3})$ である. したがって

$$\Delta OA'B' = \frac{1}{2} \left| 1 \cdot \frac{4}{3} - (-1) \cdot \frac{2}{3} \right| = 1$$



◆別解◆ 式番号は⑤から振り直す。

①, ③を連立して

$$ax^2 + \left(b - \frac{2}{3}\right)x + 1 = 0$$

判別式を D_1 とすると, ①, ③が接するとき $D_1 = 0$ であるから

$$D_1 = \left(b - \frac{2}{3}\right)^2 - 4a = b^2 - \frac{4}{3}b - 4a + \frac{4}{9}$$

$$b^2 - \frac{4}{3}b - 4a + \frac{4}{9} = 0 \dots\dots\dots ⑤$$

②, ③を連立して

$$ax^2 + \left(b + \frac{4}{3}\right)x + 1 = 0$$

判別式を D_2 とすると, ②, ③が接するとき $D_2 = 0$ であるから

$$D_2 = \left(b + \frac{4}{3}\right)^2 - 4a$$

$$= b^2 + \frac{8}{3}b - 4a + \frac{16}{9}$$

$$b^2 + \frac{8}{3}b - 4a + \frac{16}{9} = 0 \dots\dots\dots ⑥$$

⑥ - ⑤より

$$4b + \frac{4}{3} = 0 \quad \therefore b = -\frac{1}{3}$$

⑤に代入して

$$\frac{1}{9} + \frac{4}{9} + \frac{4}{9} - 4a = 0 \quad \therefore a = \frac{1}{4}$$

③は $y = \frac{1}{4}x^2 - \frac{1}{3}x + 1$ である。

7 数学B【群数列】標準

▶解答◀ (1) m 行 n 列の数を (m, n) と

表す。

$m \setminus n$	1	2	3	4
1	1	3-4	10	
2	2	5	9	
3	6	8		
4	7			

1群	2群	3群	...	第 k 群
$m+n=2$	$m+n=3$	$m+n=4$...	$m+n=k+1$
1	2, 3	4, 5, 6		

のように群に分ける。第 k 群には k 項ある。 a_k は k が奇数のときは k 群の初項, k が偶数のときは末項である。

$$a_{15} = \sum_{k=1}^{14} k + 1 = \frac{1}{2} \cdot 14 \cdot 15 + 1 = 106$$

$$a_{16} = \sum_{k=1}^{16} k = \frac{1}{2} \cdot 16 \cdot 17 = 136$$

(2) 200 が第 l 群にあるとする。

$$\frac{1}{2}l(l-1) < 200 \leq \frac{1}{2}l(l+1)$$

$\frac{1}{2}l \cdot l \approx 200$ としてみると, $l \approx 20$ である。 $l = 20$ としてみると

$$190 < 200 \leq 210$$

で成り立つ。 l は偶数であるから

$$(20, 1) = 191, (19, 2) = 192, \dots,$$

$$(m, n) = 200$$

のとき $m+n=21, n=10$ であるから $m=11$ となる。 11 行目の 10 列目である。

(3) (n, n) は第 $2n-1$ 群の n 番目であり ($2n-1$ が奇数であるから上から下へ大きくなる形), $n \geq 2$ のとき

$$b_n = \sum_{k=1}^{2n-2} k + n$$

$$= \frac{1}{2}(2n-2)(2n-1) + n = 2n^2 - 2n + 1$$

結果は $n=1$ でも成り立つ。

$$(4) 2n^2 - 2n + 1 \leq 1000$$

$$2n^2 \approx 1000 \text{ としてみると } n \approx 10\sqrt{5} = 22. \dots$$

$n=22$ としてみると $925 \leq 1000$ で成り立ち, $n=23$ としてみると $1013 \leq 1000$ は成り立たない。最大の n は 22 で b_n の最大値は 925 である。

【注意】【一般形】

$(m, n) = N$ とおく。 $m+n-1=k$ として

$$\frac{1}{2}k(k-1) < N \leq \frac{1}{2}k(k+1)$$

$$k^2 - k - 2N < 0, k^2 + k - 2N \geq 0$$

$$\frac{-1 + \sqrt{1+8N}}{2} \leq k < \frac{1 + \sqrt{1+8N}}{2}$$

この区間の幅が 1 であるから

$$k = \left\lceil \frac{-1 + \sqrt{1+8N}}{2} \right\rceil$$

$\lceil x \rceil$ は ceiling function で, 小数部分の切り上げ, x 以上の最小の整数を表す。

k が奇数のときは

$$m = N - \frac{1}{2}(k-1)k, n = k+1-m$$

k が偶数のときは

$$n = N - \frac{1}{2}(k-1)k, m = k+1-n$$

8 数学III【楕円】標準

▶解答◀ P における接線を $l: x+y=c$ と

おく。図形的に $c > 0$ である。①は

8 金沢医科大学・医学部-前期

$\left(\frac{x}{\sqrt{3}}\right)^2 + \left(\frac{y}{3}\right)^2 = 1$ と書ける. $\frac{x}{\sqrt{3}} = X, \frac{y}{3} = Y$ とおくと, ①は $X^2 + Y^2 = 1$ となり l は $\sqrt{3}X + 3Y = c$ となる. $X + \sqrt{3}Y = \frac{c}{\sqrt{3}}$ で, O との距離 $= 1$ より

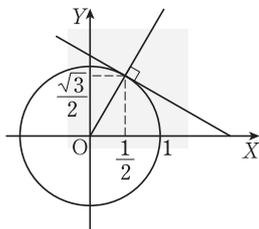
$\frac{\frac{c}{\sqrt{3}}}{\sqrt{1+3}} = 1$ となり, $c = 2\sqrt{3}$ である.

$$\frac{1}{2}X + \frac{\sqrt{3}}{2}Y = 1$$

は $X^2 + Y^2 = 1$ の $\left(\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2}\right)$ における接線である.

$$\frac{x}{\sqrt{3}} = \frac{1}{2}, \frac{y}{3} = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

より $P\left(\frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{3\sqrt{3}}{2}\right)$ である.



$x = 2\sqrt{3} - y$ と $x = -ay^2 - b$ を連立させて

$$2\sqrt{3} - y = -ay^2 - b$$

$$ay^2 - y + 2\sqrt{3} + b = 0$$

これが $y = \frac{3\sqrt{3}}{2}$ を重解にもつ. 解と係数の関係より

$$\frac{1}{a} = \frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{3\sqrt{3}}{2}, \frac{2\sqrt{3}+b}{a} = \frac{3\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{3\sqrt{3}}{2}$$

$$a = \frac{1}{3\sqrt{3}} = \frac{\sqrt{3}}{9}$$

$$b = \frac{27}{4} \cdot \frac{\sqrt{3}}{9} - 2\sqrt{3} = -\frac{5\sqrt{3}}{4}$$

放物線は $x = -\frac{\sqrt{3}}{9}y^2 + \frac{5\sqrt{3}}{4}$ となる. 楕円は

$x = \sqrt{3 - \frac{y^2}{3}}$ で, 求める面積を S , $\frac{3\sqrt{3}}{2} = \alpha$ とおく.

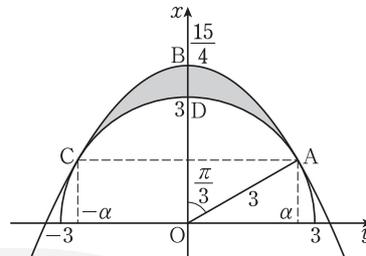
$$S = \int_{-\alpha}^{\alpha} \left(\left(\frac{5\sqrt{3}}{4} - \frac{\sqrt{3}}{9}y^2 \right) - \sqrt{3 - \frac{y^2}{3}} \right) dy$$

$$= \frac{1}{\sqrt{3}} \int_{-\alpha}^{\alpha} \left(\left(\frac{15}{4} - \frac{y^2}{3} \right) - \sqrt{9 - y^2} \right) dy$$

$\frac{1}{6}$ 公式を用いる. 図形 ABC から弓形 ADC をひくと考え

$$S = \frac{1}{\sqrt{3}} \left(\frac{1}{6} \cdot \frac{1}{3} (2\alpha)^3 \right)$$

$$\begin{aligned} & - \left(\frac{\pi \cdot 3^2}{3} - \frac{1}{2} \cdot 3^2 \cdot \sin \frac{2}{3}\pi \right) \\ & = \frac{(3\sqrt{3})^3}{6 \cdot 3\sqrt{3}} - \sqrt{3}\pi + \frac{9}{2\sqrt{3}} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \\ & = \frac{9}{2} + \frac{9}{4} - \sqrt{3}\pi = \frac{27}{4} - \sqrt{3}\pi \end{aligned}$$



◆別解◆ P の座標を (x_0, y_0) とすると, 接線は

$$\frac{x_0x}{3} + \frac{y_0y}{9} = 1 \text{ であり, } y_0 \neq 0 \text{ より, 傾きは } -\frac{3x_0}{y_0}$$

で, これが -1 に一致するから

$$-\frac{3x_0}{y_0} = -1 \quad \therefore y_0 = 3x_0$$

また, $\frac{x_0^2}{3} + \frac{y_0^2}{9} = 1$ であるから, これと合わせて

$$\frac{x_0^2}{3} + x_0^2 = 1$$

$x_0 > 0$ より $x_0 = \frac{\sqrt{3}}{2}$ となり, $y_0 = \frac{3\sqrt{3}}{2}$ より P の座

標は $\left(\frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{3\sqrt{3}}{2}\right)$ である.

$x + ay^2 + b = 0$ を x で微分して

$$1 + 2a yy' = 0$$

$y = \frac{3\sqrt{3}}{2}$ のとき, $y' = 1$ であるから

$$1 + 2a \cdot \frac{3\sqrt{3}}{2} \cdot (-1) = 0$$

$$a = \frac{1}{3\sqrt{3}} = \frac{\sqrt{3}}{9}$$

放物線 ② は P を通るから

$$\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{\sqrt{3}}{9} \left(\frac{3\sqrt{3}}{2} \right)^2 + b = 0$$

$$b = -\frac{5\sqrt{3}}{4}$$

◆要の分析◆ 昨年までとは打って変わり, 急激な難化である. 来年も同じ傾向になるのであれば, 素早く確実な計算力や, 問題の見極めが必須である.

(篠, 荻原, 楊, KK, 安田亨)